

ワクチン接種を受けられる皆さん

《一般的な注意事項》

【現地での対応について】

- 厚生労働省の HP である FORTH (<https://www.forth.go.jp/index.html>)、あるいは外務省の海外安全ホームページ (<https://www.anzen.mofa.go.jp/>) で、行先別に注意すべき感染症や現地での対応が記載されています。渡航までに該当欄を一読ください。
- いずれのワクチンも予防効果が 100% 見込める訳ではありません。食べものの注意（下記）、野生動物への接触回避、防蚊対策（下記）、手洗い・手指消毒などの基本的な感染対策、などが必要です。
- 食事からの感染（A 型肝炎、チフス、渡航者下痢症、など）
 - ・衛生管理が行き届いたレストランは比較的安全ですが、「家庭料理」や「屋台」のものは特に注意が必要です。
 - ・水道水は基本避け、ミネラルウォーターにしましょう。水道水をペットボトルに詰めて売っているケースもあるので注意が必要です。
 - ・お店でミネラルウォーターが出てきても「水道水でつくった氷」が入っていることもあり、氷は入れないようお願いするのも有効です。
 - ・生野菜やカットフルーツも注意が必要です。原則加熱してあるもの、清潔な水で洗ってあるものを選択しましょう。
- 蚊からの感染（マラリア、デング熱、日本脳炎、など）
 - ・虫よけスプレー（濃度の濃いもの）、蚊取り線香、蚊帳など、防蚊対策を用意していきましょう。
 - ・夜、窓を開けて寝ないようにしましょう。また、夜間の外出は控えましょう。
 - ・室内はエアコンで涼しくしておきましょう。
 - ・森林とか藪に入るときの服装は長袖長ズボンにしましょう。素足やサンダルも避けてください。
 - ・白色など、色の薄い服装を選択しましょう。
- 現地で体調不良を起こした場合は、帰国を待たず現地の医療機関を速やかに受診してください。

【接種に関する注意事項】

- 接種による副作用（痛み、上肢の痺れ、出血、腫れ、発疹、倦怠感、発熱、など）は稀ですが、特に接種後 30 分は急な副反応が見られることもありますので待合室で待機していただいております。また、帰宅後に気になる症状が出現した場合はまずお電話にてご相談ください。場合によっては医療機関の受診が必要となることがあります。
- 夜間や休日の場合は救急対応をしている医療機関へご相談ください。
- 接種当日の入浴は避けシャワーにしてください。また、注射部位をこすらないようご注意ください。
- 接種当日は普段通り生活可能ですが、激しい運動や大量の飲酒は控えてください。
- 接種スケジュール（複数回の接種を要するもの）は、決められた日程で行うことが望ましいです。非典型的な接種方法となった場合の効果や副作用については不明瞭となります。予定通り来院できない事情ができた際には必ずお電話でご相談ください。
- 複数のワクチンを同時に接種しますが、近々で他院でワクチンを受けた（あるいはこれから受ける予

定)方は、必ず事前に申し出てください。

○1ヶ月以上先の接種スケジュールに関しては予約取得ができません。時期が近づいたらお電話で予約取得をお願いいたします。

○女性の方は、生ワクチン接種後の2ヶ月間は妊娠を避けてください。

【帰国後について】

○感染症には潜伏期間（感染してから実際に症状が出るまでの無症状期間）があるものがあります。帰国後1ヶ月以内に何かしらの症状が出現した場合、まずはお電話で当院にご相談ください。場合によっては専門機関への紹介が必要になることもあります。渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、職歴や活動内容、動物接触歴、ワクチン接種状況などを聴取させていただきます。

○帰国後に何かしらの自覚症状が出現した場合、他者との接触をできるだけ避け、公共交通機関を使用せずに医療機関を受診してください。必ず受診前に電話連絡をお願いいたします。

○夜間や休日の場合は救急対応をしている医療機関へご相談ください。

《ワクチン各論》

○A型肝炎 Havrix（ハブリックス）の場合

接種回数 2回：初回 → 半年～1年後に2回目

- ・1回の接種で約1年間は高い予防効果を発揮します。
- ・多くのケースでは渡航までに2回目の接種が間に合わないため、1回接種して渡航し、帰国後ないし現地で2回目を接種します。
- ・2回目を適切な時期に接種しておくと、効果が約10年程度得られます。長期滞在、あるいは今後も繰り返し渡航する見込みがあれば2回目を適切な時期に接種することを推奨します。

○B型肝炎 ヘプタバックスの場合

接種回数 3回：初回 → 4週間後に2回目 → 初回から半年後に3回目

- ・渡航までに3回目の接種まで終えるのは難しいことが多い、ほとんどの方は2回目まで接種してから渡航し、帰国後ないし渡航先で3回目を接種となります。
- ・一度免疫がつけば、終生免疫（再接種不要）となります。
- ・3回接種が満了しても、免疫がつかない人もいます。実際に免疫がついたかどうか（抗体ができたかどうか）を確認する目的で、3回目の接種から1ヶ月経過した段階で血液検査（有料）を行い、確認することができます。抗体ができなかった場合はもう一度3回接種を試みることができます、それでも免疫がつかないケースも稀にあります。長期間在住予定、ないし繰り返し渡航予定の方は、一度免疫が獲得できているかどうかしっかり確認しておくことを推奨します。

○破傷風 トキソイド、トリビック、T-dap（ティーダップ）

- ・基礎免疫がある方（幼少期にワクチンを適切に接種している方）で、最終接種から10年以上経っている場合は追加で1回だけ接種を行います（追加接種）。効果は追加から約10年見込めます。
- ・破傷風だけ予防する場合は破傷風トキソイドを使用します。他に百日咳、ジフテリアという2つの病

気も併せて予防可能なのが T-dap という製剤で、どちらかを選択します。近年、百日咳の流行がありますので、3種混合で接種することを推奨します。

- ・基礎免疫が無い、あるいは接種歴を確認できない方は、基礎免疫をつけるところから開始します。この場合はトリビック（T-dap と同じで 3 疾患対象）という製剤を「初回 → 3-8 週後に 2 回目、さらに 3-8 週間空けて 3 回目」というスケジュールで接種します。効果は、追加接種の場合と同様で最終接種から約 10 年です。渡航まで間に合わない場合は B 型肝炎の場合と同様で、打てるところまで打って、残りは渡航後ないし現地対応となります。
- ・全国的にワクチンの在庫が不足しており、その時々で接種可能なワクチンを相談させていただきます。

○狂犬病 Verorab (ベロラボ)

接種回数 3 回：初回 → 1 週間後に 2 回目 → 初回から 4 週間後に 3 回目

- ・日本では 3 回接種を推奨されていますが、世界基準では 2 回とされています。
- ・効果は約 2 年間です。
- ・実際に海外で野生動物（犬に限らない）に噛まれた場合は、予防接種がしてあっても必ず現地の病院を受診してください。速やかな傷口の処置、および追加接種などの対応が必要になります。あくまで事前の発症率を下げるためのものです。
- ・現地で受診を要した場合、必ず帰国時に検疫所（健康相談室）に申し出てください。

○日本脳炎 ジェービック

接種回数 3 回：初回 → 1-4 週間後に 2 回目 → 初回から 1 年後に 3 回目

- ・農村部に滞在、あるいは長期滞在する方に特に推奨されます。
- ・近年では定期接種に組み込まれており、母子手帳でしっかり接種歴を確認できる場合は（基礎免疫がある場合）、最終接種から 10 年以上経過している場合のみ 1 回だけ追加接種を行います。これで約 10 年効果が期待できます。
- ・基礎免疫が無い、あるいは接種記録が確認できない場合は、上記方法で 3 回接種を行います。多くの場合は 2 回目まで接種を行ってから渡航となります。3 回の接種で基礎免疫が構築され、効果は約 10 年になります。
- ・多くのケースでは渡航までに 3 回目の接種が間に合わないため、2 回接種して渡航し、帰国後ないし現地で 3 回目を接種します。

○腸チフス Typhim Vi (タイフィム ブイアイ)

接種回数 1 回

- ・効果は約 2 年です。
- ・パラチフス、という菌に対しては効果がありません。
- ・予防効果は 50% 程度とされています。

埼玉医科大学かわごえクリニック 049-238-8280 (1 階受付)

電話対応時間 8:30～12:30、13:30～17:00 (休日・祭日を除く)